

= 原水爆禁止 2026 世界大会 =

スペイン／コスタリカ代表歓迎会に参加して

(竹の台 島田 徹)

8月10日、原水禁世界大会に参加した外国代表者の歓迎会が神戸市内であり、これに参加しました。

恒例の行事で、身近に外国の情勢などが聞けるので楽しみにしています。今年は、スペイン／コスタリカ代表のカルロスさん。彼は30代の医師でコスタリカ出身です。スペインに本部がある核戦争防止国際医師会議（IPPNW）の共同代表の方で、スペイン在住です。

また核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）の運営委員でもあり、それぞれの団体はすでにノーベル平和賞を受賞しています。さらにスペイン核軍縮同盟の役員でもあります。

まずコスタリカの紹介です。人口は510万人、九州と四国を合わせた面積でカリブ海に面している小国。1949年に内戦を終結して、軍隊を廃止し、その予算を教育、皆保険、労働者保護に向けた。それができたのは、軍隊廃止で労働力の確保ができ良質のコーヒー輸出で経済的に安定したため。教育の無償化、再生エネルギーの割合も97%を超えている。世界の平和に寄与するのが国是で、核兵器禁止条約成立のため、先頭に立った。コスタリカも隣のニカラグアと領土問題があるが、外交努力と国際司法裁判所に委ねる方針を持っている。しかし、右派の動きも最近、活発になってきている。



ヨーロッパ全体が軍事化に傾いている。フィンランドやポーランドも核兵器を配備すると言っている。フランスのマクロン大統領は核兵器の信奉者で、「自由が欲しければ相手を脅さなければならない」として「核兵器の数を増やす」と言っている。ロシアのウクライナ侵略、アメリカ・イスラエルのイラン攻撃など、核保有国こそが戦争を仕掛ける侵略者であり、国際法を踏みにじっている。

スペインのサンチェス首相は、「核抑止力論は、コストとリスクを高めるギャンブルだ」として、「安全保障は力ではなく、モラルによる平和を作ろう」と、今回のアメリカのイラン攻撃に米軍基地を使わせなかった。スペインは社会党を中心に5党の連立政権で11月の国会には核兵器禁止条約への参加を求める法案がすでに提出されている。予断は許されないが可決されれば、NATO内に核兵器禁止への道を開くことになる。

このような動きになったのは、昨年、日本被団協と日本原水協の代表団がヨーロッパ各地を訪問し、スペインでは、学校、自治体、国会などに核兵器廃絶の声が浸透していった成果と考えている。被爆者と連帯して「核兵器は悪」との認識を世界に広げよう

ただ、私たちの最大の疑問は、世界で唯一の被爆国である日本がなぜ、核兵器禁止条約に関わらないのか。日本政府には、道徳的リーダーシップを発揮して、核兵器廃絶の先頭に立ってほしい。そのことが世界から求められている。

以上、長くなりましたが、感動的なカルロスさんの発言で、世界は核兵器禁止への方向に流れていることを実感できた歓迎会でした。